

論文審査及び最終試験又は学力の確認の結果の要旨

①・乙	氏名	堀西 祐多
学位論文名	The Role of Beauty Salons in Community Health Promotion: Exploring Health Engagement and Social Connectivity in Japanese Hair Salons	
学位論文審査委員	主査	廣井 直樹
	副査	定金 敦子
	副査	吉野 純



論文審査の結果の要旨

美容室は、多様な背景を持つ人々が集まり、社会的つながりを育む重要なコミュニティスペースである。本研究は、継続的な美容師と顧客間で交わされる美容室での日常的な対話を通じて、美容室が健康教育においてどのような役割を持つかを解析した質的研究である。島根県松江市の単一の美容室にて、2022年6月の1か月間に127名の顧客と交わされた会話内容記録をもとに、スタッフの感情、可能な対応を質問紙で収集した。会話内容を分類したところ、健康・医療に関する話題と個人的な生活の話題が、各々27.6%と最も多かった。テーマ分析法を用いて、2名の独立した研究者が会話内容を抽象概念化したところ、「顧客との継続性」「顧客と美容師との信頼関係」「美容室の役割の拡大」の3つのテーマが抽出された。「顧客と美容師との信頼関係」のテーマに分類されるものの中でも「時間的連続性を通じた複数世代間関係の拡大」と「美容師の顧客との交流を通じた学習動機」の項目が多くみられた。継続的な美容院通いは、美容師と顧客の間に信頼関係を育み、こうした関係性の中で、個人的・健康関連の対話が自然に生まれると考えられた。また、継続的な関係性は情報共有と行動変容を促進し、美容室は家庭や職場とは異なる非公式な「第三の居場所」として機能し、個人的な話題や健康に関する対話が自然に生じやすい安心した空間であると考えられた。更に、美容室は医療機関でないからこそ、日常的な対話とスタッフとの関係性そのものが適切な受療行動を間接的に支援している可能性あると考えられた。本研究の限界として単一施設でサンプル数が少ないこと、コロナ流行期であることなどが考えられた。人口減少・高齢化が進み地域の医療資源が限られていく中、美容室という身近な場における対話と関係性が健康との関わりを生み出している実態を可視化し、美容室を地域に根ざした公衆衛生資源として捉え直した点に本研究の意義があると考えられた。

最終試験又は学力の確認の結果の要旨

美容室と医療の橋渡しの重要性について検討した質的研究である。既存の報告からリサーチクエスチョンをしっかりと導き出しながら、今後さらに深刻となると思われる地域医療の課題に対して取り組んでいた。今後の研究継続についても真摯に考えており、今後の活躍が期待される。

(主査 廣井 直樹)

申請者は、地域医療の実践に基づき把握した課題の解決へのアプローチとして、質的研究を選択した。医学研究のなかではこれから発展する分野であり、困難な局面があったと推察されるが、研究をリードし、論文として公表できたことは評価に値する。本研究を通して研究者としての資質を十分に獲得しており、今後は臨床および研究を通して地域へ大きく貢献することが期待できる。

(副査 定金 敦子)

申請者は、美容室におけるスタッフと顧客の間で交わされる会話と健康教育、健康意識との関連を調査する質的研究を行なった。本研究の結果はすでに論文化されており、島根県の地域医療への貢献という観点でも評価できる結果であり、今後のさらなる発展・応用が期待される研究であり、学位授与に値すると思われた。

(副査 吉野 純)

(備考) 要旨は、それぞれ400字程度とする。